

【水の里の旅コンテスト 2021 応募企画】

【学生部門】 応募者名： 明治大学政治経済学部 木寺ゼミナール

【タイトル】	みしま ecotourism(みしまへ行く〜ツーリズム)		
【サブタイトル】	～人と水の可能性を感じる旅～		
【都道府県名】	静岡県	【地域名】	三島市
【日程】	<input checked="" type="checkbox"/> 日帰り ・ <input type="checkbox"/> 1泊2日 ・ <input type="checkbox"/> 2泊3日 ・ <input type="checkbox"/> その他 ()		
【実施時期】	<input type="checkbox"/> 春 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 夏 ・ <input type="checkbox"/> 秋 ・ <input type="checkbox"/> 冬 ・ <input type="checkbox"/> 通年 / (実施時期:)		
【催行人員】	20名 (最小催行人員: 10名)	【お勧めする旅行者層】	東京都心の小学生
【旅行代金】	2640円 (1名あたり)	【代金内訳】	グラウンドワーク三島ガイド費 1000円 (20人で催行する場合) 楽寿園入場料 300円 お弁当 700円 みしまコロケ 140円 バス運賃 200円 お豆腐アイス 300円

【企画趣旨 (伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント)】

＜着想に至った背景＞

2020年度から実施された「新学習指導要領」において、「持続可能な社会の創り手の育成」が明記されるなど、現在子どもたちに対して国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)の担い手の育成としてのアプローチが求められています。私たち明治大学木寺ゼミは、東京都・墨田区等と協力し隅田川流域でSDGsの啓発普及イベント等を実施してきましたが、こうした活動を通じて東京都心部の子どもたちは、①水辺空間への親近感が低く、②身近な河川は汚いものであるとの認識が強いことがわかりました。

こうした現状に対し、持続可能な水資源の観点から、子どもたちが河川空間に親しむとともに、水辺環境は私たち人間の手で改善されることを学ぶ必要があると考えられます。しかし、学校現場でこれらを学ぶ機会は少なく、コロナ禍でさらに校外学習が減らされています。

その一方、子ども向けサッカークラブなどのいわゆる学校外の習い事産業は、オプションなイベントを展開することで少子化下の競争に打ち勝とうとしています。調査の結果、こうしたオプションな学びに対する保護者の期待も強いこと、しかし習い事産業側は本来の活動以外でどうオプションなイベントを展開していこうか悩んでいることが明らかになりました。

これまでの本コンテストの受賞プランは、すでに美しさが保たれてきた河川空間を対象とする傾向がありましたが、本プランは一度汚染され埋め立ての危機に直面したにもかかわらず、地域の人々の手で水辺環境が再生された河川空間を対象とするプランです。こうした点を強調したツアーを組むことで、「持続可能な社会の創り手」を育成するという社会の要請に応えます。また、これまであまり着目されてこなかった習い事産業のオプションなイベントにマーケットを見出す点も新規性があります。加えて、本プランは後述するように三島の地域活性化への貢献にもつながります。さらにプラン実現化に際しては協力していただける団体の同意を取り付けています。以上より、社会的課題と地域課題を解決する効果が見込め、新規性と実現可能性の高い本プランを提案します。

＜地域選定理由＞

三島市は豊富な湧水が流れていることで知られ、「水の都」と呼ばれている街です。しかし、清流の街になった背景には壮絶な「人と水」の歴史がありました。

以前の三島は現在の綺麗な水辺環境とは程遠く、水が汚染され川を埋め立てるといった話があったほどでした。そこで「グラウンドワーク三島」という団体を中心に地域住民の方々が立ち上がり、「水の都」を再生していきました。地域住民の方々の尽力のおかげで、現在は三島市の水は子どもから大人まで幅広い年齢層の方から愛され、生活に欠かせない存在となっています。

こうした歴史を通じ、「人」の手によって「水」辺環境を改善することができる「可能性」を東京都心の子も達に知ってもらうことは、彼らの故郷の水辺・自然環境へ当事者意識を育ませることに繋がります。

さらに、「水の都」として広く認知されていないという問題があります。源兵衛川や柿田川湧水群といった魅力的な場所がありますが、観光客の多くは三島郊外にある人気観光スポット・三島スカイウォークを訪れるのが現状です。三島市の水辺環境の認知度は決して高くありません。

そこで私たちは三島市の水の軌跡を辿るエコツーリズムを実施することで、①三島市が行う環境保全活動への認知を広げることができる、②“エコツーリズム”という観光基盤が確立することで持続的に観光客が訪れる、という効果が期待でき、環境保全活動や観光地としての認知度不足といった課題の解決に繋がると考えました。

以上の理由から私たちは三島市を選定しました。

<“みしま ecotourism”とは>

今回、私たちはエコツーリズムの考え方に沿ったプランを考え「三島へ行く」と掛け合わせて「みしま ecotourism(みしまへ行く〜ツーリズム)」と名付けました。エコツーリズムとは、地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目的とする仕組みです。三島には人の手で美しい水を取り戻したという歴史があるにもかかわらず、周囲の認知度は低いという課題があります。そのため、本プランで三島の美しい自然を余すところなく体感し、日本でも類を見ない素晴らしい歴史のある街として知ってもらう機会にしようと考えました。これらを実現する方法として、エコツーリズムの観点から三島市をめぐることこそが、三島の魅力を最も伝えられる方法であると考えます。さらに、本プランで「三島市×エコツーリズム」を実現することで、三島の魅力が持続的に後世に伝わり、「三島＝水の都」というブランドイメージを確立することが出来ます。

<ターゲットのマーケットについて>

今回私たちは、「習い事をしている」子どもたちをターゲットにしました。大きな理由として、習い事をしている子どもたちとその保護者側、習い事を運営する企業・団体等産業側の双方にニーズがあるからです。私たちが2021年9月に関東圏に住む大学生に対して行ったアンケート(母数:209件)によると「子どもの頃習い事をしていた」という回答は98.1%と非常に高い結果が出ました。さらに「習い事の行事で本プランのような課外活動をしたい」という回答も82.6%と同様に高い結果が得られました。

また同じく同年9月に関東圏の保護者層(母数:73件)に対して習い事に求めることをアンケートした結果、「学校では出来ない経験をして欲しい」「精神面の成長を期待している」などの声が多く集まりました。加えて本プランを提示し、「子どもに参加させたいか」というアンケートをとったところ、88.6%と非常に高い結果を得ることができました。

さらに実際に課外行事を実施しているクラブ(株式会社ファンルーツ代表・FCトレーロス代表 平野淳氏)にヒアリングを行った結果、「コロナによりそのような課外行事を行いたくても行えない」「課外行事を実施したいが、行く場所に困っている」等の意見をいただきました。

本プランは、今まであまり着目されてこなかった習い事産業のオプションなイベントとしての課外活動に潜在的な市場性を発見し、産業側・保護者側のニーズにマッチしたプランとなっています。

また、コロナ禍の各種規制に対して、習い事産業は学校と比較し柔軟に行動できる点もターゲットとしての魅力です。

<協力団体>

本プランの実装化にあたっては、「グラウンドワーク三島」様から協力の了承を得ています。古くから「水の都」と呼ばれていた三島市ですが、高度経済成長期に環境悪化の一端を辿り溝川となってしまいました。静岡県庁職員であった

現・グラウンドワーク三島専務理事・事務局長の渡辺豊博氏が1992年に立ち上げたグラウンドワーク三島は、現在20の地域活動団体が加盟、200社以上の法人が協賛をしている団体であり、ゴミ捨て場化した川の再生、一度は市内から姿を消した水中花ミシマバイカモの復活、古井戸・水神さん・湧水池の再生、ホテルの里づくり等、市内70ヶ所以上で具体的な実践活動を展開しています。本プランでは、ガイドの役割を担うことが予定されています。

以上のように本プランは、運営に当たっては協力団体の了承を取り付け、新たな市場を開拓しており、実現可能性と新規性が高いものとなっています。

<期待される効果>

(1)社会的課題の解決

本プランではSDGsの項目に当てはまる内容を学習することができます。また、現在小学生は教育の一環としてSDGsについて積極的に学んでおり、本プランはその発散の手段ともなり得ます。

具体的には、目標6の「安全な水とトイレを世界中に」、目標13の「気候変動に具体的な対策を」、目標14の「海の豊かさを守ろう」に関する学びを体験でき、学校での学びを発散する機会を設けることで、子どもたちの記憶に永く残るような旅を作ります。この旅を通じて水辺環境についての知見を深めることで、持続可能な社会の創り手の育成につながります。また、子どもたちに率先して働きかけることで、三島市の水の豊かさを関東にも広げられたらと考えます。

(2)産業側の課題解決

一方で課外学習に行く場所に困っているという課題を抱える習い事産業には、オプションなイベントのツアーを提供することで、産業側が保護者や子どもたちからのニーズに答えるという効果を持つことが期待できます。

(3)三島市の課題解決

環境保全活動や観光地としての認知度不足という課題に対して、以下の効果を持つことが期待できます。

- ① 三島市の水辺環境の歴史を後世に伝えることができる
- ② 三島スカイウォークなどの観光スポットに集中している観光客を市街地に呼び込むことができる
- ③ コロナで減った三島市への観光収入を増やすことができる

以上のように、効果面からも3つの方向から課題解決のアプローチができるプランとなっています。

<p>【 催 行 実 績 】</p>	<p>※当該企画が催行されている場合や、催行されている別企画を元に一部変更したものの場合は有に☑してください。</p> <p>☐ 有 → いつ催行されましたか： <small>※募集ホームページアドレス（ある場合のみ）：</small></p> <p>☑ 無 → 今後の催行予定はありますか： ☑ 有 → いつごろ催行予定ですか：来年度 ☐ 無</p>
<p>【 特 記 事 項 】</p>	<p>新型コロナウイルスの感染状況によっては、規模を縮小して行うことを想定しています。</p> <p>また今後、東京都だけではなく関東圏の悪質な水辺環境に住んでいる小学生にも焦点を当て、ターゲット層を広げたいと考えています。</p>

【エントリーシート 別紙】

【 行 程 表 】

<p>1日目</p>	<p>9:30 三島駅集合 【徒歩 10分】 9:40～10:20 楽寿園【40分】 【徒歩 10分】 10:30～11:15 白滝公園(ワークショップ①)【45分】 【徒歩 5分】 11:20～11:30 浅間神社【10分】 【徒歩 20分】 11:50～13:00 梅花藻の里(お昼ご飯)・清掃管理体験【70分】 13:00～15:00 源兵衛川探索(ワークショップ②)【120分】 →白滝公園に戻り、グラウンドワーク三島と解散 【徒歩 10分】 15:10～15:30 みしまコロッケ(三島駅)【20分】 【市街バス 15分】 15:45～16:45 柿田川公園【60分】 16:45～17:05 お豆腐アイス【20分】 【徒歩 10分】 17: 15～17:25 丸池公園【10分】 【徒歩 15分】 17:40 三島駅解散</p>
------------	---

【主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産物など）】

ポイント1



【コメント】

三島駅 ～旅の始まりは三島駅で～

三島駅は、東海道・山陽新幹線、東海道本線、東海道線、伊豆箱根鉄道が停車します。また、レンタサイクル「ハレノヒ」(15分 100円)の起点でもあります。駅周辺には多数のお店があるため、三島駅集合にすることで子ども達のテンションが上がることは間違いなし！

ポイント2



【コメント】

楽寿園 ～源兵衛川はじまりの地～

楽寿園は、12,000年前に富士山が噴火したとき流れ出た溶岩流の末端です。ここを水源として、源兵衛川、四ノ宮川、蓮沼川が流れ、下流地域の灌漑用水として人々の生活を支えています。楽寿園の敷地内にある湧水によって形成された「小浜池」は、蓮沼川(宮さんの川)と源兵衛川の起点となっています。小浜池の水位は季節によって変化し、降水量の多い夏に増加、冬に減少します。

美しい水だけでなく、動物とも触れ合える楽寿園を旅のスタートにすることで、子どもたちの旅へのモチベーションは高まることでしょう！



【コメント】

グラウンドワーク三島について ～三島の守り神～

グラウンドワーク三島は、ゴミ捨て場と化した川の再生、一度は市内から姿を消したミシマバイクモの復活、湧水池の再生、ホテルの里づくり等、市内70ヶ所以上で具体的な実践活動を展開しています。同団体は、十分な「案内人」を確保しており、本プランではワークショップをしていただきます。

実際に水を清めたグラウンドワーク三島の方々の話を聞く事で、子どもたちの川に対する当事者意識が生まれます。



【コメント】

グラウンドワーク三島による学びの内容①歴史編
～溝川から清流への軌跡～

三島は「水の都」と呼ばれていましたが、工業化が進み豊かだった水辺環境も消滅の危機にさらされました。(写真上)グラウンドワーク三島代表の渡辺豊博氏の尽力で汚れた川が清流へと復活し、三島市中心部の風景は大きく変わりました。本プランでは、その経緯や三島の水辺環境の歴史を、渡辺氏から白滝公園にて「青空教室」形態で学んでいただきます。

青空教室を開校することにより、臨場感があり退屈さを感じる事なく、子どもたちに水への学びを深めてもらいます。



【コメント】

白滝公園 ～溶岩の地で青空教室～

富士山からの湧水が滝のように流れていることから「白滝」の名前がつけました。園内には、富士山大噴火の際に流れ着いた、ごつごつした溶岩が露出しています。グラウンドワーク三島事務所の目の前にあり、天気が晴れたら公園内で「青空教室」を開校して、源兵衛川探索の事前講義を受けてもらいます。



【コメント】

浅間神社(せんげん神社)～身を清め源兵衛川探索へ出発～

浅間神社は、伊豆国三宮のうちの二宮。富士山大噴火の溶岩流がここで止まったことから「岩留浅間」とも言われる神社です。江戸時代には、三島宿から富士山を目指す登山者が、登山前に身を清めに訪れたそうです。主祭神は水の神である木花開耶姫命(コノハノハクヤヒメ)。グラウンドワーク三島事務所のすぐ近くにあり、源兵衛川探索の始まりの前に、心を清めましょう！

**【コメント】****グラウンドワーク三島による学びの内容②生態系編**

～多様な生き物が住む場所～

地道な保全活動の結果、全国的な絶滅危惧種や、綺麗な水辺にしか咲かないミシマバイカモ、三島市の鳥・カワセミなど、たくさんの動植物の生息が確認されています。市街地を流れる河川としては、他の都市には見られないほど豊かな水辺環境が復活しました。本プランでは、実際に源兵衛川に足を入れて自然・湧水に触れることにより、市街地に自然が溢れていることを体感してもらいます。

豊かな生態系を楽しく体感し、川を綺麗にする取り組みと必要性を学ぶ事で、問題意識を高めてもらいます。



【コメント】

源兵衛川について ～世界に誇る源兵衛川～

源兵衛川は、17,000年前の富士山大噴火の際に流れ出た溶岩の末端部から湧き出しています。室町時代に、地元の有力者寺尾源兵衛が農業用水として利用できるように築造に尽力しました。人々の手によって築かれた源兵衛川は、今なお農業用水として利用されています。古くから人々の生活に密着している源兵衛川は、2016年に「世界かんがい世界遺産」に登録、2018年に「世界水遺産」にも登録され、2つの世界遺産に登録されているのは世界で源兵衛川だけです。

源兵衛川の国際的な価値を子どもたちに伝える事で、源兵衛川の貴重性と重要性を広い層に知ってもらえるでしょう！なお、アジア都市景鑑賞も受賞しています。



【コメント】

源兵衛川のスポット紹介

①雷井戸

直径3メートル、深さ1.5キロの巨大な井戸で実際に汲むことができます。グラウンドワーク三島の「泉トラスト運動」で整備をした場所です。

②せせらぎ散歩

源兵衛川の川沿いに整備されている遊歩道・水の散歩道を歩くことを、「せせらぎ散歩」と言います。源兵衛川の各スポットを、川沿いを歩きながら巡ることができます。

③蓮沼川(宮さんの川)

市民手作りの木製水車が設置され、実際に水車を回す体験をすることができます。源流の楽寿園に小松宮別邸があったことから「宮さんの川」とも呼ばれています。

たくさんの魅力的なスポットがある源兵衛川には、長時間滞在しても飽きない素敵な水辺環境が整っています。



【コメント】

梅花藻の里 ～美しさの秘訣は三島の水～

ミシマバイカモは綺麗かつ冷たい水でしか育ちません。美しい三島梅花藻の里は、湧水地であるため、湧き出た水に直接触れることもできます。また、グラウンドワーク三島が継続的に26年間にわたり管理維持を担っており、水と緑の癒しのスポットです。ミシマバイカモを見渡すことができるデッキやベンチもあるため、お弁当を食べるのに心地良い場所です。実際に湧水の中に入り、ミシマバイカモの清掃作業を体験することができます！



【コメント】

お昼のお弁当 ～三島の愛情満点弁当～

地元でとれた野菜が添えられた、身体に優しいお弁当です。無農薬・化学肥料無使用のため、野菜が持つ本来のおいしさを楽しむことができます。生産者の方の愛情が詰まったお弁当です。ミシマバイカモの美しい景色を見ながら楽しいランチタイムを過ごせます！



【コメント】

みしまコロッケ ～三島自慢の名物～

みしまコロッケは箱根西麓で作られた三島馬鈴薯を100%使ったコロッケです。中に入る具や形は、ソフトクリームのような形やハートの形など、各店舗オリジナルで様々です。三島市内には、63店舗のみしまコロッケの認定店があります。衣はサクサク、中はしっとり甘い三島市自慢の名物です！

**【コメント】****柿田川公園 ～国指定天然記念物～****①柿田川湧水 ～絶景スポット～**

富士山からの雪解け水が地上に湧き出る湧水群があることで知られ、「日本名水百選」「21世紀に残したい日本の自然百選」などにも選ばれています。源は約40km北方の富士山に降った雨や雪であり、これらが地下水となり三島溶岩流の間を長い年月(十数年といわれる)を経て流れます。ほぼ無菌で適度にミネラルを含む、日本有数の素晴らしい湧水となり、ここに湧き出しています。透明な湧水はとても美しいです！

②柿田川湧水群で水汲み ～汲みたての富士山の味～

柿田川公園の敷地内には、水汲み場が4か所もあります。園内で空のペットボトル(50円)を購入することができ、自由に汲んで飲むことができます。富士山の雪解け水が百年をかけて柿田川公園に辿り着いた水は本当に新鮮で美味しいです！



【コメント】

お豆腐アイス ～柿田川名物ヘルシースイーツ～

豆腐館製造のお豆腐を 40%使用したアイスクリームです。定番のプレーン・抹茶などのほか、季節ごとに限定フレーバーが登場します。三島の水が綺麗だからこそ、美味しいお豆腐が作られています。ちょっと変わったヘルシースイーツをぜひ堪能してみてください！



【コメント】

丸池公園 ～賑わいと憩いの空間～

親水池と公園が一体化している場所で、身近に水の綺麗さを感じてもらえます。また、夜は街灯が水に反射されるため、水と光の美しい景色を目で感じることができます。三島の落ち着いた空間へ足を運んでみてはいかがでしょうか！



取扱店ステッカー



三島つまみ食いチケット

販売価格

1,000円 (1,100円分の利用券付)

(チケット内容 200円：3枚 100円：5枚 富士山絵葉書：1枚付)

300円 (300円分の利用券付)

(チケット内容 100円：3枚 富士山しおり：1枚付)

購入先：三島市観光協会



【コメント】

三島つまみ食いチケット ～旅をより楽しむチケット～

事前に申し込みをすると、三島市内の40件以上の飲食店、土産店、観光施設などで使えるお得なチケットを購入できます。チケットは2種類で、300円分のもので1100円分のものであり、絵葉書1枚とセットになっています。1枚のチケットで様々な体験ができ、子どもたちがワクワクすること間違いなしです！



【コメント】

ホタル ～幻想的な三島の夜を～

源兵衛川では、5月上旬から6月の下旬にかけてホタルを観測することができ、見ごろは5月の中旬で100匹を超えるホタルが飛び交います。観賞ポイントは、源兵衛中流部。ゆっくり観賞したい方にはぜひ、穴場のスポットと言われる水の苑緑地を訪れて欲しいです。幻想的な夜をぜひ体感してみたいかがでしょう！